

在京石鳥谷 町人会だより

(題字 旧石鳥谷町長 高橋公男氏)

連絡所：在京花巻ふるさと会事務所
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル 603号
TEL:03-6256-8082 FAX:03-6256-8083
事務局：高橋弘美
〒270-0127 千葉県流山市富士見台
1-10-40
携帯 080-5529-8803



『白鳥と岩手山』(新堀3区、4区、5区) 撮影者:新堀地区コミュニティ会議 石川 永子 様

【2022年 行事予定】

11月 6日(日) 令和4年度 在京石鳥谷町人会 総会・親睦交流会
場所： 上野 精養軒



ごあいさつ

在京石鳥谷町人会

会長 高橋 弘美



会員の皆様こんにちは。高橋弘美でございます。

この冬は本当に冬らしい凜とした寒さの日が続きましたが、皆様におかれましてはお健やかに過ごしのことと思います。世の中には新型コロナウイルスが得体の知れない化け物のように次から次へと形・名前を変えてはあらわれ第5波だ、第6波だと一向に収束が見えない事態になり本当に困ったものです。しかしそうした曇天続きのような重い雰囲気晴らしてくれるうれしいニュースがありました。ひとつ目は元花巻市副市長であり、長らく石鳥谷町長を務められた高橋公男氏が 2021 年秋の叙勲において瑞宝双光章を受勲されたことです。氏は在京石鳥谷町人会の発展を心から願い私共の活動をご支援下さいました。本誌の創刊にあたってはタイトル題字をお願いしたところ二つ返事でお寄せ頂き今でも燦然と掲載させて頂いております。さっそく受勲に際するお喜びの写真と

町人会へのメッセージをお願いしたところころよくお引き受け下さりました。本会のこれまでの活動に最大限の評価と暖かいお言葉を頂きました。誠にありがとうございました。早速掲載いたしましたので皆さんには是非お読み頂きたく存じます。

二つ目はこの冬に冬季オリンピックが開催されました。開催場所はよく覚えておりませんが確か BEIJING とかいうところでした。採点基準の曖昧さや奇妙な判定がみられ折角の熱戦に水を差す問題が随所にあつて、後味はけっしていいものではなかった印象が残っていますが、それでも日本人選手の大活躍には心躍りました。とりわけスキージャンプの我が郷土のホープ小林陵侑選手の金・銀メダルの獲得です。日本人選手の金メダル獲得第一号だったところも記憶に残る素晴らしい活躍でした。本会役員陣で交信している LINE においても日本人選手活躍の投稿で花盛りの様相になりました。アスリートの皆さんの活躍が引き籠りがちの我々に本当に元気を与えてくれました。ありがとう!! です。

さて令和 3 年度の在京石鳥谷町人会の総会・親睦交流会は冒頭に記載のコロナの影響で 2 年続いての開催中止となりました。出席者の安全を考えると致し方ないことなのですが、何とかふるさとの皆さんとの交流を一層強めたいと思い「町人会だより」では年末から年始にかけてのふるさとの風景を紹介するコーナーを企画しました。各コミュニティの皆さんのご協力のもと、写真とメッセージを頂いて掲載しました。なつかしいふるさとの状況を味わえるコーナーとなっていますので、ご覧頂いて思い立つことがありましたらすぐにもご実家や友人に連絡してみたいかがでしょうか。

一昨年からは会員全員(約600名)に年2回広報誌「町人会だより」をお届けしています。コロナ禍で会員相互やふるさとの交流がままならない状況にあつても何とか繋がりを保ち、広げていきたいとの思いがあります。本誌では会員の皆様からの投稿や写真を募集しています。皆様のご家族やご自分の自慢話、思い出話などを是非お寄せ下さい。投稿が縁で総会・親睦交流会に参加して見ようかなときかけができることもあるかと思ひます。

今年の在京石鳥谷町人会総会・親睦交流会は11月6日(日)にいつもの上野精養軒で開催します。世界的にウィズコロナの対応が広がっています。コロナの存在は横眼でながめつつ、でも人生の糧となるおしゃべりや食事などはしっかり楽しもうというものです。会場での感染対策をしっかり実施して、ご出席の皆様にもその時期に合った対策をお願いしながら今年こそ総会・親睦交流会を必ず開催致します。

是非皆様のご出席をお願いしつつ、引き続き在京石鳥谷町人会の活動へのご協力・ご支援をお願い申し上げます。

第35回「在京花巻人のつどい」に参加して 在京石鳥谷町人会 副会長 川村三郎



令和3年11月28日(日)11時より御茶ノ水の東京ガーデンパレスで、「在京花巻人のつどい」が開催されるというご案内を頂きましたので参加させて頂きました。

我が在京石鳥谷人会は、コロナ感染5波が持ち上がった中でしたので「総会・親睦交流会」の中止を決めていました。その中で花巻人会さんが「在京花巻人のつどい」開催を決定されたと聞き驚きましたし、勉強させて頂きたく参加を申し込みました。

会場に着き受付をしたところで高橋良光副会長にお願いをして、開会前に会場の案内をして頂き、苦勞をされた様子がうかがわれました、1テーブル4名(通常6名)に十字の形でアクリルのパーテーションで仕切りを置き、25テーブル100名分(参加者97名+スタッフ数名)宴会場ぎっしり並んでいました。また宴会恒例の芸能が披露できないので、壇上左右の大型スクリーンに新花巻空港滑走路のライブ映像と花巻まつりのVTR、高橋圭三氏の映像を流すとの事でした。ホテル側も成功させるべくかなりの力の入れ様を感じられました。

会が始まり、司会者の開会宣言と共に皆様にお願として、「懇親会の際アルコール類は差しつ差されつの酌み交わしをしないで、手酌でお飲み頂きますようお願いいたします」とのご案内に皆さん苦笑されていました、やむを得ない事だ

頂いた資料のご来賓名簿や、座席表を見た時、ご担当者が入れ替わっており少し驚きました。

例年であればビール瓶か一升瓶を持ってテーブルを渡り歩きましたが、今回は名刺を持ってテーブルを巡りました。これで突然花巻市役所を訪問しても迷子にならずに済みそうです。

また今回参加された皆様は馴染みの方ばかりで、手酌でゆっくり飲んでいる人は少なく「ご無沙汰をしています」の言葉を発して握手やグータッチをしてテーブルを回っていました。

今回「在京花巻人のつどい」に参加して感じた事は、まだまだコロナ禍の自粛ムードの漂う中、企画実施に踏み切った在京花巻人会スタッフの皆様拍手を送りたいと思いました。この会に参加した皆様が皆生き生きとして、久しぶりの同級会に集まった仲間の様に笑い合い、語り合っていました。

やはり人はこの様に群れる楽しさを望んでいるのかもしれませんが。

久しぶりに楽しい時間を過ごさせて頂き感謝しております、有難う御座いました。

瑞宝双光章を受勲して

新堀地区コミュニティ会議 会長 高橋 公男



令和3年秋の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章の栄に浴し、昨年11月22日に家内共々岩手県知事より勲記・勲章の伝達を賜りました。本来ならばその後皇居に参内し天皇陛下に拝謁するところではありますが、コロナ禍のため中止となりましたが、身に余る光栄に感激致しております。

これもひとえに在京石鳥谷町人会の皆様をはじめ多くの方々の温かいご指導ご高配の賜と心から深く感謝申し上げます。

今後もこの榮譽に恥じることはないよう心に刻み一層精進する所存ですので、従前と変らないご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

思えば在京石鳥谷町人会が昭和63年10月2日に設立されて以来昭和、平成、令和とこれまで30数年間に渡り皆様と心温まるお付き

合いをさせていただきましました。

石鳥谷町職員、石鳥谷町長、そして平成18年4月からは花巻市副市長として、さらに平成27年4月からは新堀地区コミュニティ会議会長として私の成年期の大半を皆様と共に歩んでまいりました。

常に故郷を思い、交流を絶やすことなく、毎年総会交流会では笑顔でお会いし、「全国綱引き選手権大会」では盛大な応援を、阿佐ヶ谷での「石鳥谷観光物産展」では率先してご協力を、石鳥谷夢まつりには多くの方々にご来場いただきました。

石鳥谷町が合併と同時に町章を町人会章としてお引き受けいただき、またふるさと復興支援ツアーを実施されるなど故郷にいつも心を寄せていただいております。

平成30年には創立30周年記念植樹や記念誌「朋友」の発行、記念総会や交流会の開催など盛大な記念事業が実施されました。

現在はコロナ禍により、これまでのような交流ができない状態ではありますが、必ずや克服され往時の交流が甦るものと信じております。

在京石鳥谷町人会が今後さらにご発展されますことと皆様の益々のご隆盛を心からご祈念申し上げ御礼の御挨拶とさせていただきます。

「2021年～2022年 石鳥谷町の年の暮れから新年にかけての各地区の風景」

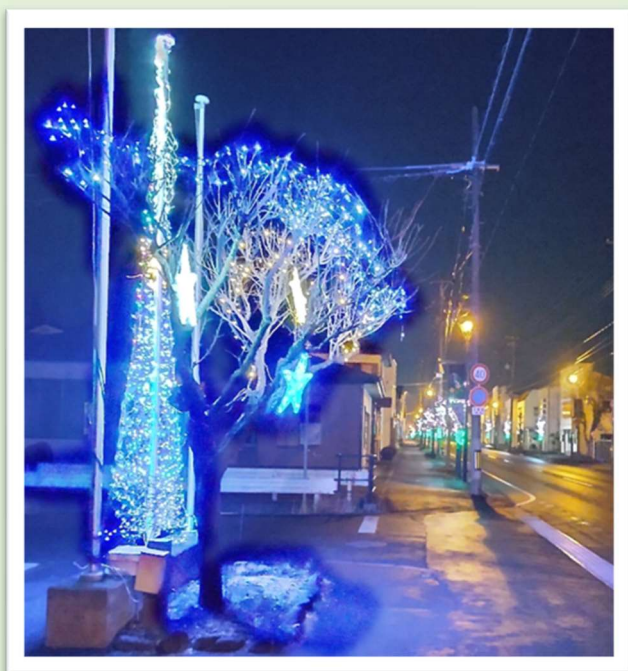
在京石鳥谷町人会 編集長 上川信行

この企画は、前回の石鳥谷町の各コミュニティ様からのメッセージに引き続き、故郷との結びつき、絆をより一層強めると共に在京石鳥谷町人会会員の皆様には少しでも石鳥谷町の様子が伝わればと思い企画致しました。この企画段階ではコロナは収束方向に進んでいるように見えました。2月には各コミュニティ様へのご挨拶と「つるし雛」「たろし滝」の取材計画を立案しておりました。結局取材計画は中止となり、誠に残念です。しかし、各コミュニティ様から頂いた各地の写真は貴重なシーンが沢山ありました。

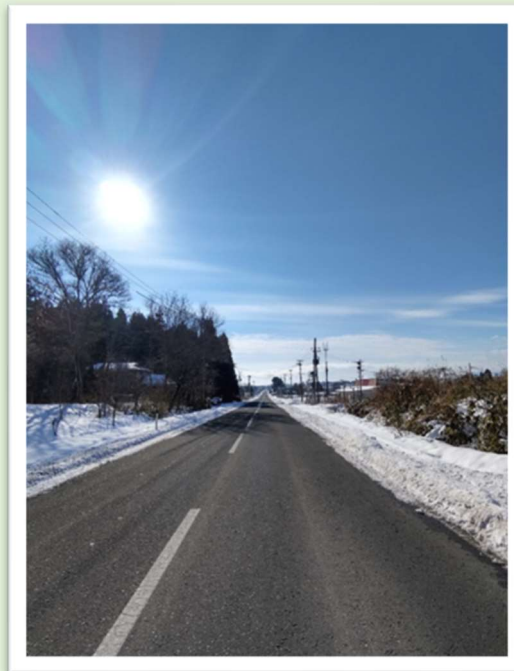
ご覧になって、あそこかな？とか、あ～あれだ！とか色々石鳥谷町の様子に思いを廻らして下さい。コロナで帰省を自粛している人も多くいらっしゃると思います、少しでも写真で石鳥谷町の様子をお伝えできたら幸いです。また、ご協力頂いた各コミュニティの皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

好地地区の風景

好地地区まちづくり委員会



2021年 12月28日
商工会議所から盛岡方向へイルミネーション



2022年 1月6日 県道265号線 奥州街道
数馬長根(紫波境)から好地地区街場へ



2022年 1月6日 大正橋からの冬の北上川

撮影者:好地まちづくり委員会
会長 藤館 茂 様

新堀地区の風景

新堀地区コミュニティ会議



2021 年 12 月 20 日

冬の戸塚森の米田くんと新幹線

(新堀1区、7区)

雪をかぶり師走の晴れた日の戸塚森の下には北海道に向かう新幹線はやぶさと秋田に向かうこまちが通り米田くんも大変喜んで顔です。田んぼは秋耕起が終わり雪に覆われています。



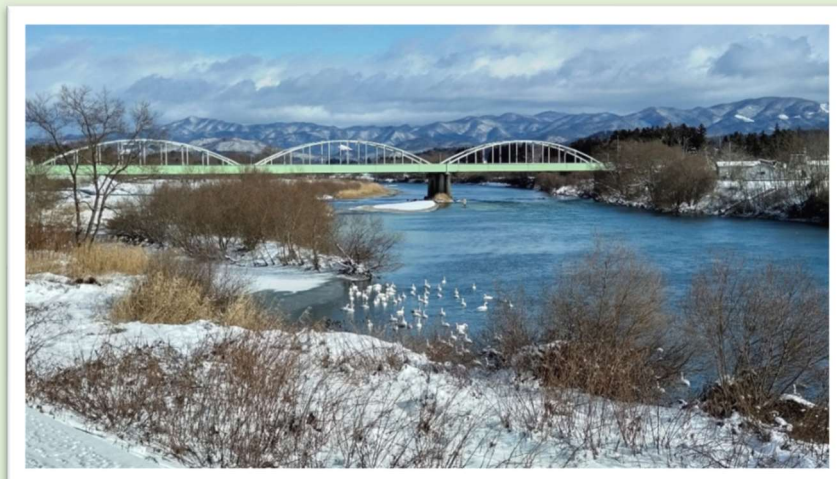
2021 年 12 月 20 日 ネギと戸塚森

(新堀1区種森、2区明戸)北上川のほとりで冬の寒さを受け甘みが増したねぎは、いわて純情ねぎ「やわら香(か)」として出荷されています。



2021 年 12 月 20 日

JAいわて花巻石鳥谷園芸センター(新堀1区)ふじのりんごの選果中、出荷を待っています。



2022 年 1 月 1 日 大正橋

元日の陽を浴びて、白鳥が優雅に北上川大正橋下流の清流に浮かんでいます。

撮影者:新堀地区コミュニティ会議
石川永子 様

八重畑地区の風景

八重畑コミュニティ協議会



2021 年 12 月 19 日 東八重畑公民館周辺の田んぼ

雪解靄(ゆきげもや)という珍しい現象の写真です。撮影者:八重畑コミュニティ協議会 会長 大竹 佐久子 様



2022 年 1 月 1 日 日の出 東八重畑地区のりんご畑

残念ながら初日の出は拝めませんでしたが、幻想的な元旦の朝です。

撮影者: 同 会長 大竹 佐久子 様



2022 年 1 月 1 日 早朝

花巻鳥谷崎神社

撮影者: 同 事務局長 大竹 昌二 様

八日市地区の風景

八日市地区コミュニティ会議



2018 年 12 月 1 日 八日市いきいき交流館
平成 30 年度 親子体験教室「餅つき体験」

撮影者:八日市地区コミュニティ会議
熊谷 美雪 様



2020 年 1 月 11 日 八日市いきいき交流館
令和元年度 世代間交流事業
「ミズキ団子作り会」

撮影者:八日市地区コミュニティ会議
熊谷 美雪 様

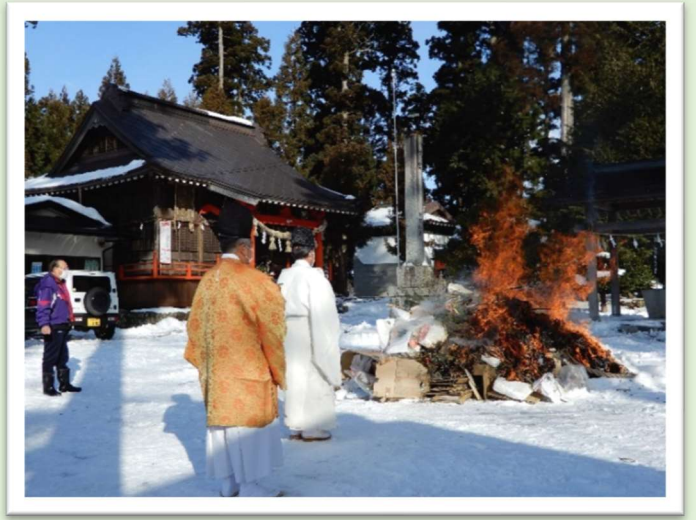


2022 年 1 月 17 日 八日市いきいき交流館
「八日市いきいき交流館敷地内除雪作業！」

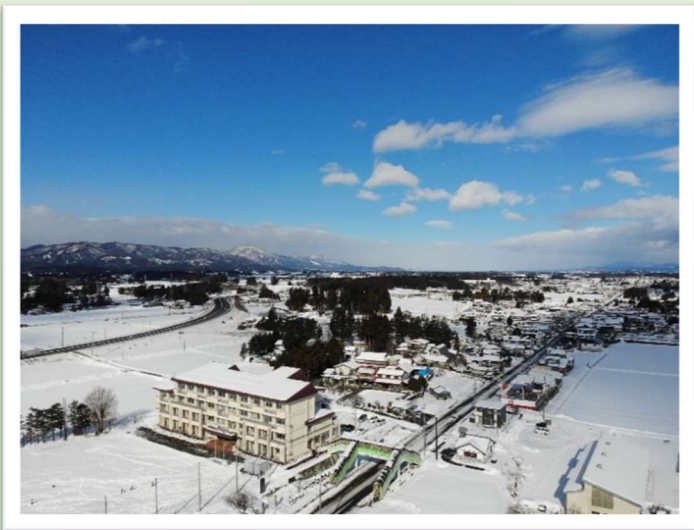
撮影者:八日市地区コミュニティ会議
高橋 麻美 様

八幡地区の風景

八幡まちづくり協議会

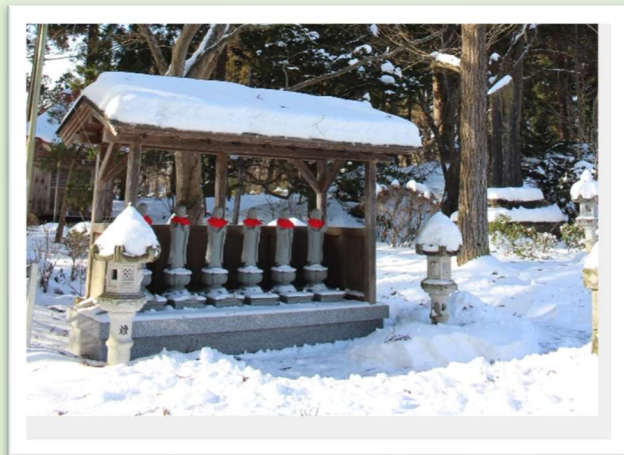


2022年 1月15日 八幡神社「どんと祭」 撮影者:佐々木 英智 様



「今年で150周年を迎える八幡小学校と井戸向橋(手前は新堀側)」

2022年 1月14日 ドローンによる空撮 撮影者:葛岡 勝徳 様



2022年 1月17日
「光林寺のお地蔵さん」

撮影者:八幡まちづくり協議会
葛岡 真由美様

大瀬川地区の風景

大瀬川活性化会議



2021年12月28日 雪降りの一晩が明け、朝日に照らされた西山(大瀬川8区地内より)
 撮影者:大瀬川活性化会議 熊谷 敏江様



2022年1月10日 8区自治公民館みずきだんご作り
 (大瀬川振興センター)
 撮影者:8区自治公民館 柳原 紘樹様



2021年12月28日 除雪作業
 (大瀬川振興センター敷地内)
 撮影者:同 熊谷 敏江様



2022年1月11日 雪背負う金次郎
 (大瀬川運動公園)
 撮影者:同 熊谷 敏江様

何でも(寄稿、写真、思い出..)掲示板

在京石鳥谷町人会

今年は体力アップを目指します！

在京石鳥谷町人会

八幡出身

玉山 健司

広告の企画・制作をする会社を 30 年近くもやっています。「会社をやってる」というと偉そうですが、社員がたった二人しかいない会社です。以前はちゃんとオフィスを借りて営業していましたが、年を経るにつれて仕事量もみるみる先細り、いつの間にか自宅でするようになってしまいました。好きな仕事を気ままに自由にやりたい。バブル期はそんな甘〜い“経営方針”でもなんなく乗り切れました。『イヤな仕事なんかしません、僕らは「No」と言える会社だし！』と粋がっていたものの、結局のところ「No」と言うと、仕事が来ないことも覚悟しないといけなわけです。お陰様でしがらみとかストレスとかとは無縁でしたけどね。

その結果、事務所も無くなり、もう 5、6 年前からは電話とメールのやり取りだけで仕事をするようになっていきます。まあ今はメールで資料も写真もやり取りできるので、ほとんどの仕事は打ち合わせ無しでも事足りるのです。

そんなこんなで家にばかりいる時間が増え、どんどん出不精になってしまいます。コロナのパンデミック以前からこんな感じなので、実は緊急事態で外出自粛と言われてもあまり変化はありませんでした。家にはパソコンが 2 台ありますが、パソコンまで歩く 2 メートルが面倒で、ソファに座って手元の iPad でなんとか片付けようとする始末！そのうち、仕事関係や公共料金の振り込みもすべてネットバンキングなので銀行にも行かない。クライアントへの請求書も「ウチは SDGs のためにペーパーレスを目指してますので！」とかなんとかお願いして、データで請求書を送るようにして郵便局にも行かない。時々スーパーへ買い出しに行く他はほとんど

外出しないという有り様です。

以前は週末に 5~6km のジョギングをしていました。この半引きこもり生活のおかげで、このジョギングもひと月に一度できるかできないかの体たらくに。おまけに回数が減った分だけ体力も落ちて、前のように走れません。思い立った時にすぐ運動ができると考え、ジャパネットでランニングマシンを買ってみました。しかしこれがくせ者で重さがなんと 30kg 以上もあります。たんでコンパクトに仕舞えるのですが、用意するのが一大事！体力がアップする前にギックリ腰でギブアップしそうで、あまり活用できていません。

何年も前に妻と「藤原の郷」を訪れた時に、室内の歩みにくさに驚いたことを覚えています。敷居がとんでもなく高くて大げさに脚を上げないと越えられません。こんなところに住んでたら体力付きそう、と思ったのですが現代のバリアフリーとは真逆です。我が家も各部屋に段差がなく、色んな場所に手すりもあります。実は先回りし過ぎたこんな配慮が、かえって身体を甘やかしてるのかも？なんて考えも浮かびます。バリアフリーなんて無かった昔の人ほど足腰が丈夫だったのかもしれない。還暦をとくに過ぎて、このまま動けなくなるとはいけません！今年体力アップを第一に、毎日短い時間でも外へ出かけることから始めたいと思います。銀行へも、郵便局にも積極的に行くことにします！



今年こそ収束するはず・・・そんな願いも空しく、2021年も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が収まらないまま明け暮らす1年となりました。息苦しい毎日の中でも、町民が感染対策及び危機管理への高い意識を維持している様子から、まじめで慎重な岩手県民らしさを感じる今日この頃です。現在は新たな変異株の脅威に戦々恐々としておりますが、こんな時代だからこそできることを見つけて、町に活気を与えようと頑張っている方々が沢山います。心が温かくなるような、楽しいニュースで、元気な石鳥谷町の様子をお伝えできればと存じます。

1. 2年ぶり開催八幡田んぼアート（八幡まちづくり協議会）



6月6日 田植え 八幡まちづくり協議会



7月頃 絵柄が鮮明に！



10月 稲刈り後の案山子展

昨年はコロナ禍により中止を余儀なくされましたが、今年は感染対策を講じ2年ぶりの実施となりました！今回のテーマは、宮沢賢治の短編童話「やまなし」。八幡田んぼアートプロジェクト主催の「八幡まちづくり協議会」の皆様の手によって、水田のキャンパスに賢治さんの世界が描かれました！石鳥谷生涯学習会館の駐車場からこのアートの全体像を眺めることができ、町内外から多くの方が観賞に訪れました。「やまなし」に登場する二匹のカニや、梨が水中に落ちてきて波紋が広がっている様子、カニが笑う様子を表現した賢治さん特有のオノマトペ「かぶかぶ」などそれぞれ絶妙に表現されています。春から秋へと季節が移り変わるごとに表情を変える田んぼアートは、コロナ禍で沈む心を和ませてくれました。10月には稲が刈られました。ほとんどなくしてその田んぼの一角に、手作りのかかしがずらり！

八幡まちづくり協議会の皆様のおかげで、観賞時期が終了してからも沢山楽しませていただきました。

2. 石鳥谷フラッグアート設置（石鳥谷中央通り商店街振興会）



石鳥谷町に元気と活気を与えるプロジェクトとして、石鳥谷中央通り商店街が平成23年度から取り組み始めた「商店街街路灯フラッグ」事業。県道中寺林犬淵線沿い約700mの商店街に建っている街路灯にフラッグを設置し、それを眺めた人が明るい気持ちになるようにという願いが込められた企画です。この事業も2021年で3回目を迎

えました。前回に引き続き石鳥谷町の「花北青雲高校(旧花北商業高校)」の生徒さんに「石鳥谷を連想させるような」フラッグのデザインを依頼しましたが、今回は石鳥谷町の障がい者支援施設「ルンビニー苑」の利用者様にも同様のデザインをお願いしました。近年、心のままに描かれた障がい者アートは、その芸術性が全国的に高く評価されており、ルンビニー苑にもアーティストとしてご活躍されている利用者様が多くいらっしゃいます。昨年、東京パラリンピックの閉会式においてルンビニーアーティストの作品が採用され、プロジェクトマッピングで鮮やかに映し出されました。そんな注目度の高いルンビニーアーティストと高校生の感性とが光る、今までにない素敵なフラッグが2021年4月に完成し、商店街を明るく彩っています。

3. 「石鳥谷まつりの思い出展」開催 (小さな百貨店ぷらっと／石鳥谷中央通り商店街振興会)

【↓(左から、上若連・上和町組・中組)】



石鳥谷の秋の風物詩「石鳥谷まつり」は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により2年連続で中止という形になってしまいました。祭りの音が聞こえないのは寂しいですし、祭りの中止が長引くことによって地域の交流や伝統の継承すら危ぶまれる、そんなふうには危機感を募らせる方も少なくありませんでした。そんな中、5つの祭り組のうち、上若連、上和町組、中組の有志の方々が立ち上がり、山車製作技術の伝統を守るために、そしてお祭りを楽しみに

に待っている方々に雰囲気を感じてもらおう為に、感染対策を充分に行った上で、過去に使用したパーツを再利用し山車人形を製作したのです！製作された山車人形は、9月27日～10月29日の期間中、小さな百貨店ぷらっと(旧いなむら)を会場に、「石鳥谷まつりの思い出展」と題し展示されました。間近で見る山車人形は想像よりも大きく迫力満点！お祭りを心待ちにしていた町民の皆様にとっても好評でした。祭りを愛する町内外の方々も足を運んでくださり、更にはロコミで聞きつけたNHK盛岡放送局様が取材に来てくださいました！NHKの夕方の番組「おばんですいわて」で展示の様子が放送され話題になりました。この思い出展は、2022年へと皆で思いをつなぐ大きなきっかけになりました。今度こそは盛大に石鳥谷まつりが開催されることを願ってやみません。

日本人

在京石鳥谷町人会

石鳥谷六彦

密造焼酎のカフジ正宗をしこたま飲んで少々良い気分になってベッドにもぐり込んだのだが、この頃仕事が思い通りにならない日が続いているのか眠りになかなかつけないで悶々としていた。

カーテンに目を移したら、隙間から月明かりが入ってきた。今晚はいつもより空気が澄んで久しぶりに綺麗な月が姿を見せており、急に外に出てしっかり楽しもうと思ったのである。

ここはサウジアラビアの北東部に位置するカフジ、アラビア石油(株)アラビア鉱業所の独身寮である。この独身寮は、ユーカリの木立の中に建ち砂漠の国とは思えないくらい緑が豊富で、たくさんの小鳥たちが遊びに来る居住区である。10月ともなれば夜は涼しく、昼のガリガリの暑さと大違い、やっぱり外で見る月は美しい！！

月ばかりではない星も綺麗なのである。そーだ、広大な砂漠で見たらどうだろうかと変な興味が持ち上がった。早速部屋に戻って着替え、愛車クレシーダ(日本名;トヨタマークII)を近くの砂漠に走らせた。もちろん酒気帯運転だ。居住区には風がなかったが、砂漠では足元の砂がサラサラ動く位の風が吹いている。夜空には手をのばせば取れそうな星・星・星・・・と見たことがないくらい大きな月が鎮座している。今宵はなんと美しい空なのだろうか！

誰も見てない誰もいない状況がそうさせるのか、歌を唄い始めた。

「月の砂漠を はるばると
旅の駱駝が ゆきました
金と銀との 鞍置いて
二つならんで 行きました
うっ 二番は？
さきの鞍には 王子様
あとの鞍には お姫様
.....」



この“月の砂漠”はなんと美しい歌なのだろうか！！ 詩もメロディーも素晴らしい。ただ残念なのはほとんど歌詞を忘れていたことだ。

さてよ、ここは本当の砂漠それも真夜中、歌と同じシチュエーションだ。王子様とお姫様が夜中に駱駝に乗って、お供の家来無しで旅？財宝をくりつけていたら、盗賊の餌食になるだろう。

これは絶対に砂漠の国では発想しない事なのだ。どうしてこのような疑問が浮いたのだろうか、こんなことを日本で話したら、お前は日本人の美的感覚が皆無だ、豊かな日本人の心をぶち壊したと袋叩きに会うだろう。夜空の下で考えてみたがどうにも答えが出ない。砂が靴に入り込む位風が出てきたので、砂が舞わない岬に近いゴルフ場に行くことにした。潮風に当たることができるかもと思ったからである。潮の匂いを嗅いだら何かまともな答えが得られるのではと思ったのである。

ここカフジの正式地名は英語でRas Al Khafji(カフジ岬)というのだが、岬を感じさせるのはゴルフ場のこのあたりなのだ。波の音と潮の香りは、砂漠の無味無臭の風とは大違いである。満天の星、アラビア海の波は月の明かりで美しくチカチカと輝く様は、先程の疑問を追究させる力を消し去るのであった。夜に外に出歩いたのはこの日が初めてで、余りにも心地良かったのですっかり時間を忘れてしまった。遠く海の向こうの東はイランだが、そのイラン側の空がほんの少し白みかけてきたら声が出ていた。

「知床の岬に ハマナスが咲くころ
思い出しておくれ 俺たちのことを
呑んで騒いで 丘に登れば
遥か国後に 白夜は明ける

旅の情けか 酔うほどにさまよい
浜にでてみれば 月は照る波の上
君を今宵こそ 抱きしめんと
岩かげによれば ピリカが笑う」



なんてこれも良い歌だ、「酔うほどに・・・」「月は照る波の上」全く似たシチュエーションではないか！！ 美しい詩だ。涙が流れた。ふと思った。もし、森繁久彌が今ここにいたらどんな詩を作るだろうか？ きっと知床以上にこのカフジ岬を美しく歌い上げてくれるだろう！！

そうだ、これらの歌の美しさを理解できるのは、真の日本人なのだ。図々しいが俺もその一人にしておこう。

僕はネコです

在京石鳥谷町人会 八重畑出身 下川（タケル）友子



ボクはネコです。名前はタケルと言います。ボクは元保護猫で、色々な人たちの手を経て生後8ヶ月の時にママの友達に連れられてこの家に来て来ました。

最初、この家に来た時は恐くて馴染めなくて、この先どうなるのだろうかとかビクビクして、ママとお姉ちゃんの顔を見ることも出来ず隠れてばかりいました。この家に住めるのかなあと不安な毎日でした。でも今はママがトイレやお風呂に入ると、ボクに隠れて何をしているのかなって気になり、ドアの前で声を掛けます。するとママは毎回じゃないけどドアを開けて中に入れてくれます。ボクはママを確認して満足します。そんなボクをお姉ちゃんは「タケルはママのストーカーだ」って言っていますが違います、ボクはママのボディガードなんです。

そうそう、ボクの名前はママが命名してくれました。ママが好きな俳優の佐藤健にあやかってタケルって付けたいです。どうやらママはイケメンが好きみたいです？！

ママとお姉ちゃんは 1

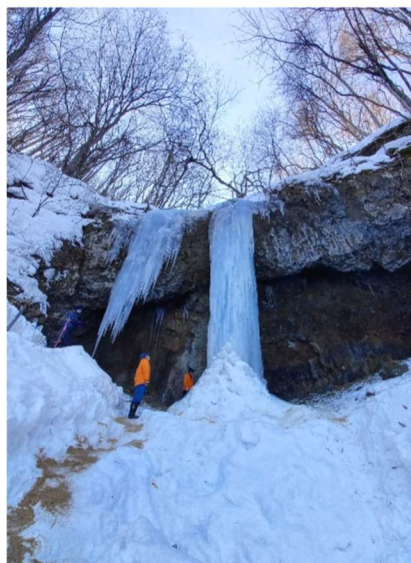
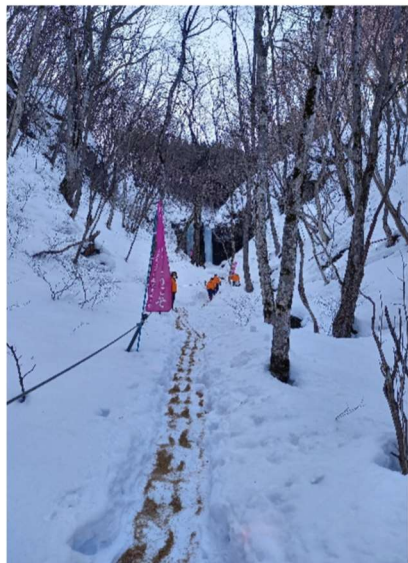
日に何度も「可愛い」って言ってくれます。我ながらホントにボクは佐藤健に負けず劣らずのイケメンだなあと自負しています。

ボクはママとお姉ちゃんが家に居てくれると安心します。お姉ちゃんは週 5 日、ママも時々仕事に出かけるから一人で留守番することが多いです。その時はとても不安です。今日一日どのように過ごそうか、玄関のチャイムが鳴ったらどうしようかと色々考えちゃいます。そんな時、お姉ちゃんはたくさん「おもちゃ」を買って帰って来て遊んでくれます。ボクはお姉ちゃんが遊んでくれる時“ノリノリ”、ママがご飯の用意をしてくれる時“わくわく”です。

時々、ママやお姉ちゃんに呼ばれても面倒くさい時は耳やしっぽだけで返事をしますが、ママやお姉ちゃんが体調が悪くて寝ている時、ボクは思いやる気持ちがあるので側に近づかないようにしています。だからボクがお腹を空かしている時、眠い時、撫でて欲しい時は「どうしたんだろうね」「どうして欲しいのかな」って言ってないで、ボクの気持ちを汲み取って分かって欲しいです。

これは自慢だけど、ボクの家にはボクだけのものがたくさんあります。特に動くネズミのおもちゃがお気に入り、ネズミを捕まえた時、ボクは“やったー！”って得意気になります。ママもお姉ちゃんもそんなボクをべた褒めです。いつも「タケルはイケメンでしかも天才だねえ」って言ってくれます。その度にボクはひそかに満面の笑みになってしまいます。こんなボクに見つめられることでママもお姉ちゃんも癒されるらしいです。ボクが気持ち良さそうに寝ているのを眺めているだけでほっこりするとか、ゴロゴロと喉を鳴らす音が聞こえてくると満足な気分になると言っているので、きっとママとお姉ちゃんはボクを必要としてくれていると、ボクは理解しています。ボクもママとお姉ちゃんの気持ちに応えようと懸命に頑張っています。この家に来て、安全な環境で不安や恐怖を感じないので(時々、ボクが嫌いな病院に連れて行こうとするときは困るけど)、ボクはリラックス出来て穏やかな気持ちになります。ママとお姉ちゃんに出会えて本当に幸せだなあと思っています。これからも大好きなママとお姉ちゃんの支えになります。なんたって、ボクはこの家で唯一の“男の子”だから！！

たろし滝測定会の様子を大瀬川活性化会議様にお問い合わせ致しました



たろし滝測定会は令和4年2月11日(日)午前10時に開かれ、今年の測定結果は 5m45cmご託宣は「豊作」と出ました。

温暖化により、平成に入ってから滝が崩落するなど測定不能の年も増加していますが、昨年に引き続き一本につながった「たろし」の太さに、保存会の方々も胸をなで下ろしていました。

今年から、新会長に就任した熊谷幸夫(さちお)会長の豊作祈願川柳 『仰ぎ見る コロナもたまげる 大氷柱』
穏やかな日常を取り戻したいものです。

(撮影・文 大瀬川活性化会議 熊谷 敏江様)

【編集後記】

思い起こせば2年前、故川村政義編集長からこの在京石鳥谷町人会だよりの編集を引き継ぎ早2年経ちました。第26号から第30号まで5回の発行となります。その間、在京石鳥谷町人会総会・親睦会はコロナの影響で開催されませんでした。また年間行事もすべて取り止めとなり、活動そのものが出来なくなりました。2022年の30号は石鳥谷に取材に行こうと昨年11月から準備していました。年が明けてあつという間にオミクロンの感染拡大となり、取材計画は中止となりました。東京と石鳥谷、物理的には離れていますが、各コミュニティ様の絶大なご協力により石鳥谷町の情報が集まりました。今度は在京側から石鳥谷町に何か提供できるものを模索しています。8月の夢まつりはどうなるかまだ分かりませんが、帰省できるかもわかりませんが3年間も実家のお墓を掃除していないのはまずいです。今年もシルバー人材センターさんに「帰れないよね？」と励まされそうです。コロナ感染、ロシアのウクライナ侵攻等世界的危機の早期終息と安心安全な日常を祈っております。

問い合わせはメールで hola.borrachos@yahoo.co.jp

(編集長) 上川 信行

